

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和3年11月12日

事業所名: 放課後等デイサービスフェローIntech

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	
環境・体制整備	1	○			室内のレイアウトを定期的に見直し、最適なスペースの確保を検討している。	23	2	0	4	机の設置や収納の配置も見直し、十分なスペースの確保に努める。
	2	○			利用児童の人数に合わせてアルバイトの配置等も行っている。	23	2	0	4	利用人数を確認しながら、適切な人員の配置を随時行っていく。
	3	○			身障者用トイレへの動線や壁面モニターの設置など、過ごしやすい環境整備に努めている。	23	1	0	5	利用者の状況や特性に合わせた配慮や環境整備を行っていく。車椅子児童の座席は余裕を持って検討しておく。
	4	○			毎日掃除をしている。コロナ対策としてIT機器の消毒等も以前より強化された。	23	1	0	5	引き続き、毎日の清掃を徹底していく。
業務改善	1	○			毎年事業所の方針と年度計画を立てる他に、月次会議も月1回行い業務改善を進めている。	/	/	/	/	振り返りの結果に応じて、目標の再設定まで行い、より良い事業所運営を進める。
	2			○	第三者からの外部評価は取り入れていない。	/	/	/	/	
	3	○			研修機会は多く設けられており、案内があれば職員も前向きに参加している。	/	/	/	/	自分達で受講したい研修情報も積極的に集めていく。
適切な支援の提供	1	○			子ども本人のニーズを日々の対話から分析しながら、半年に一度のモニタリングでは保護者から聴き取りを行っている。	26	1	0	2	現在はお電話でのモニタリングが多くなっているが、対面できる機会や直接お話できる場面を増やしていく。
	2	○			出来る限り、具体的な活動内容や関わり方を記載するように意識している。	25	2	0	2	職員間で、個々の課題に合わせた活動の立案や支援に関して話し合う時間を増やしていく。
	3	○			個人による制作活動の様子、小集団活動での様子、活動全体を通しての計画を作成している。	/	/	/	/	今後も子ども達の様々な側面を理解できるよう、活動の幅を拡げていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	
適切な支援の提供（ 続き）	4		○		支援計画に沿った活動を心掛けているが、状況により変更になる部分もある。	25	2	0	2	作成している支援計画をより意識できるための話し合いを職員間で増やしていく。
	5	○			スタッフ発案での活動プログラムも多く、チーム全体でのアイデアを取り入れている。	/	/	/	/	引き続きミーティングの機会を充実させながら、スタッフの得意分野も活かしていく。
	6	○			定期的なイベントの企画立案や、IT活動の提供方法についても工夫しながら変化させている。	27	1	0	1	引き続きミーティングの機会を充実させながら、スタッフの得意分野も活かしていく。
	7	○			長期休暇や土曜・祝日にはイベントや公園活動も取り入れている。	/	/	/	/	平日の通常活動が一番固定化しやすいため、カリキュラムの改善に力を入れていく。
	8	○			日次の申し送りを通して情報を共有している。	/	/	/	/	毎日の申し送りを継続して行っていく。
	9	○			送迎業務もあり、支援終了後に話し合えない日もあるため、日次の申し送りを通して情報を共有している。	/	/	/	/	毎日の申し送りを継続して行っていく。
	10	○			日々の支援記録を作成し部署内で共有している。支援の検証・改善については話し合いが不十分と感じる。	/	/	/	/	今は児発管中心に記録を行っており、職員一人ひとりが記録と支援の検証・改善ができるよう改善する。
11	○			半年に一度のペースでモニタリングと支援計画見直しを行っている。	/	/	/	/	半年以内であっても、最適と思われるタイミングでモニタリングと支援計画見直しを行う。	
関係機関との連携	1	○			学校、関係機関からの要請に応じて、随時担当者会に参加している。	/	/	/	/	引き続き要請に応じて、対象児の状況をしっかり伝えられる職員が随時担当者会に参加する。
	2				（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施					該当者なし

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
関係機関との連携（続き）	3 （医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備				現在、医療的ケアが必要な児童はいない。						該当者なし
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有			○	送迎時に通学中の学校から情報共有を受けることはある程度。支援内容の情報提供は相談員さんから頂くことが多い。						随時必要な関係機関との連携を図っていく。
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	○			主に相談員さんから情報提供を頂いている。また、各支援者会への参加も行っている。						随時必要な関係機関との連携を図っていく。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	○			専門機関からの研修受講は情報が届く度に案内し、参加している。						今後も研修には積極的に参加し、必要に応じて連携を図っていく。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	○			公園活動を通して一般のお子さん達と関わったり、イベントに地域のお子さんが参加したりと交流している。	7	1	3	18	・感染防止のこともあるが、障がいのない子供と何かをすることはあまりない気がする。	他の関係機関や地域の子供達も巻き込んだイベントの開催ができるよう、機会を図っていく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	○			こちらからの招待ではなかったが、イベントに地域住民のお子さんが参加してくれて自然な交流が生まれている。						助成金事業等も活用し、地域へより広く情報を発信し、参加してもらえる機会を作っていく。
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明		○		契約時や利用者負担の変更があった際にはお知らせをしているが、説明が不十分と感じる。	27	2	0	0	・利用者負担についてはプリントのみ	契約時、支援計画作成時など、保護者さんとお話できる機会により丁寧な説明を心掛ける。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	○			計画作成のための聞き取りと、お渡しの際には説明を行っている。	27	1	0	1		計画作成時にはきちんと合意が取れるよう、分かりやすく丁寧な説明を心掛ける。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施			○	ペアレントトレーニングは、不十分だと感じる。今後、家庭でのお子さんとの関わり方等の相談・助言も積極的に行っていきたい。	13	5	1	9		今後は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みつつ、しばらく実施出来ない保護者勉強会等も開催・活用しながら、ペアレントトレーニングを充実させていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	○			日々の出来事や変化については連絡帳やメールで情報をお伝えしている。	25	0	0	4	・連絡ノート、電話、e-mail等で問い合わせに関しては迅速に対応していただいている。	こちらからの発信はもちろん、ご家庭からも状況や課題を教えていただける関係作りに努めていく。
	5	○			児発管を中心に、親御さんからの相談については丁寧に対応ができています。	20	5	0	4	・感染防止のこともあり、障がいのない子供と何かをすることがあまりない気がする。 ・特別に設けていないが特に問題はなさそうです。	モニタリング時など積極的に保護者さんのお話も伺うことで相談援助ができる機会を増やしていく。
	6			○	保護者会がこの数年実施できないままとなっている。	2	4	4	18		コロナ対策も行った上で、保護者同士が関わることができる機会の企画を行っていく。
	7	○			苦情があった際には迅速に社内に報告し、どのような対応が望ましいか協議しながら進めた。	20	1	1	6	・メールでお知らせしてもらえるので安心です。 ・同じ内容の苦情がほかの職員でまた繰り返されることがあり、周知が不十分に思う。	同じクレームを繰り返すことがないよう、その後の対策についての周知・検討の質を高める。
	8		○		意思疎通のために視覚支援ツールを導入したり、日々の出来事については連絡帳やメールで情報を伝えている。	24	1	0	3		ツールが合わない場合の検討が不十分であるため、話し合い・改善の時間を作っていく。
	9	○			今年度特に力を入れて広報誌改善に取り組み、写真や動画を使いながら活動を毎月発信した。	27	0	0	1		引き続き、保護者や子ども達にとって必要な情報発信を行っていく。ホームページのリニューアルも進める。
10		○		個人情報の取り扱いについて契約時に調査は行っているが、確認不足な点がある。	27	1	0	0	0	・管理者レベルでのミスがあった。	過去にメールでの宛先間違いがあっただけから、現在は確認を強化し改善している。継続して意識する。
非常時等の対応	1	○			昨年度評価結果を受け、マニュアルの見直しと送付を行った。マニュアルに沿った研修も実施している。	23	2	0	3	・活動時間内での具体的な感染対策は聞いていない。	事業所で実際に行っている対策について、保護者にわかりやすいよう広報誌にも掲載していく。
	2	○			年に2回避難訓練を実施している。	24	0	0	4		消防署に依頼し実際の消火・通報の訓練など、災害のパターンも変えながらより実践に近い訓練を行っていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
非常時等の対応 (続き)	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	○			虐待防止委員会を設置し、定期的に(2か月に一回ペース)研修を実施している。						引き続き虐待防止のための研修を継続して行っていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	○			個別支援計画に必ず記載をしている。						引き続き個別支援計画への記載を徹底し、どのような場面で起こりえるかの説明ができるように改善する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	○			医師の指示書までは確認できていないが、契約時の聞き取りでアレルギー情報は把握し、料理イベント時等の配慮に繋げている。						契約時の情報確認に加え、今後はアレルギー・服薬状況等の聞き取りも行っていく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	○			事故やトラブルがあった際にはヒヤリハット報告書を作成し、グループ内に共有している。						報告して終わりではなく、改善に繋がられるよう、事例を活用していく。